総　務　部

第 9 回（2021 年度）代議員総会決定の活動方針に基づいて、定款第 4 条に記載された諸事業の遂行のために、各部との企画・調整を行い、会務の円滑な執行に努めた。

１．2022 年 3 月末会員数

医科

開業会員　1,080 名

勤務会員　　657 名

休診会員　　58 名

歯科

開業会員　1,121 名

勤務会員　　303 名

休診会員　　23 名

合計　　3,242 名

２．弔慰・見舞い等は規程に則り行った。

３．諸会議及び行事開催状況

①代議員総会　　1 回

②理事・支部長会　　1 回

③理事会　　12 回

④会計監査　　2 回

⑤公認会計士による外部監査　2 回

⑥各部担当理事会

三役会 5 回、総務部 12 回、財政部 1 回、組織部 4 回、文化厚生部　2 回、政策部 12 回、審査対策部 12 回、広報部 22 回、共済部 4 回、歯科部 12 回

⑦委員会

共済制度運営委員会 1 回、休業保障保険給付審査委員会 12 回、休業保障保険加入審査委員会 1 回、女性部会 3 回、歯科スタッフセミナー委員会 1 回

⑧支部長会 1 回

⑨研修会

公開医政講演会 2 回、保険診療セミナー 1 回、開業医のための実務セミナー 3 回、接遇・電話対応マナー講座 1 回、女性部会市民セミナー 1 回、ライフプラン講座 2 回、女性部会よろずトーク 1 回、

【歯科部関連事業】

歯科臨床講演会 1 回、歯科施設基準届出研修会 2 回、歯科医療安全管理研修会 1 回、歯科保険請求に関する講演会 1 回、歯科スタッフセミナー 1 回、歯科新点数検討会 1 回

⑩親睦事業

会員・家族親睦ボウリング大会 1回

⑪その他の会議等

北海道医師会との懇談会 1回

4．保団連諸会議への出席状況

①定期大会　1回

②代議員会　1回

②理事会 12回

③その他

全国会長・理事長会議 1回、歯科担当副会長会議 6回、歯科理事会議 5回、共済制度運営委員会 2回、共済部会 1回、政策部会2回、組織部会2回、女性部会 2回、新聞部会 3回、医科社保・審査対策部会 3回、歯科社保・審査対策部会 3回、休保審査委員会 11回、休保加入審査委員会 1回、勤務医委員会 1回、事務局長会議 1回、夏季セミナー 1回、若手医師・歯科医師の集い 1回、勤務医交流会 1回、組織担当者交流会 1回、女性部会学習交流会 1回、機関紙誌担当者交流会 1回、病院、有床診セミナー 1回、共済担当事務局会議 3回

5．職員人事

2名採用（正職員1名、パート職員1名）

財　政　部

新型コロナウイルスの感染症患者が国内で確認されてから 2 年以上経過したが、未だに収束する気配が見えず、感染の波が到来するたびに医療逼迫に陥り、医療機関に大きな影響を与えている。

「2020 年度医療経済実態調査」では、病院をはじめ医科・歯科診療所ともに前年度よりも医業経営の悪化が浮き彫りとなったが、次期診療報酬改定では前回の改定を上回るマイナス改定となった。

このような状況下、本会では会員へのサポートを最優先に活動を行いながら、本会財政の健全化にも努めた。

本会の諸活動が円滑かつ順調に執行されるべく、以下の事項に努めた。

１．第 9 回代議員総会決定の方針に基づき、収入・支出予算の正確な執行に努めた。

２．毎理事会において、会計現況報告を行うことにより、各部の予算執行の均衡を図るとともに効率的な予算執行の助言を行った。

３．組織拡大、共済活動に伴った財政運営を行い、財政基盤の強化と会務の円滑な執行に努めた。

４．単年度における厳密な収支の均衡を助言し、単年度プラス収支に向けて、経費削減に努めた。

５．会計ソフトを活用し、会計処理業務の強化と効率化に努めた。

６．公印管理を厳密にし、財務管理の実務の強化に努めた。

政　策　部

新型コロナウイルスの感染者数が増減を繰り返し、予断を許さない状況が続く中、菅前首相の総選挙前の辞任により急遽「岸田政権」が成立した。選挙戦では自公が絶対安定多数を獲得し、新自由主義からの脱却をかかげた岸田首相が再任となるも、安倍・菅政権時の社会保障の負担増・給付減となる「全世代型社会保障」を引き継ぎ、負担増計画などが進められている。

こうした中、政策部は①患者負担増の諸政策撤回②コロナ禍における医師等の健康確保に配慮した真の働き方改革を実現するため、大幅な診療報酬・介護報酬の引き上げ③コロナ禍で打撃を受けた医院経営を立て直すための各種助成金の早期給付等を求め活動した。

その他、感染拡大により活動が制限される中、国民皆保険制度を守り、医療をはじめとする社会保障の充実とさらなる発展に向け、全期を通して懇談・要請行動など、幅広い活動を行った。

以下に活動実績を列記する。

１．新型コロナワクチンの円滑な接種体制を整えるため、余剰分となったワクチンを職種や年齢などにかかわらず、医療機関の裁量で接種できるよう、秋元札幌市長へ要請した（2021 年 6 月 4 日）

２．昨年度に実施した学校健診後治療調査では、調査結果の発表を受け NHK 札幌局がテレビ報道し道民、教育関係者の関心を集めた。（2021 年 8 月）

３．保団連の「開業医の実態・意識基礎調査」に協力した。（2021 年 8 月～9 月）

４．全国の協会・医会が取り組む「クイズで考える私たちの医療」に取り組み、会員に協力を呼び掛けた。（2021 年 9 月～2021 年 11 月）

５．紙智子参議院議員および道議、市議など 5 人との懇談会を開催。コロナ禍における医療現場の状況、長期にわたって実勢価格と告示価格との乖離が続く歯科の金パラ逆ザヤ問題を伝えるとともに、医療機関への国や自治体による持続的・継続的支援の必要性、早期の問題解決を訴えた。（2021 年 9 月 30 日）

６．NPO ほっとプラス理事の藤田孝典氏を講師に招き、公開医政講演会「新型コロナ禍における貧困と格差　保健・福祉・医療の拡充を目指して」を WEB 開催した。（2021 年 10 月 2 日）

７．2022 年秋に任期満了となる衆議院選挙を見据えて、会員へリーフレット等を送付した。政党・立候補予定者に対しては「医療に関する政党アンケート」を実施し、

その調査結果をホームページ等に掲載した。（2021 年 10 月）

８．厚生労働大臣と北海道知事に対し「新型コロナウイルスワクチン接種体制支援事業の要件緩和」を要請した。（2021 年 10 月 29 日）

９．保団連の「疲弊した医療提供体制を立て直す診療報酬改定を求める 医師・歯科医師請願署名」を実施し、本道集約分を内閣総理大臣、厚生労働大臣などに提出した。（2021 年 12 月）

10．講師に名古屋検疫所 中部空港検疫所の守屋章成氏を招き、コロナワクチン講演会「新型コロナワクチン最新エビデンスの整理と今後の展望」を WEB 開催した。（2022 年 1 月 15 日）

11．新型コロナ対策の充実、医療機関の経営改善に向け、入院施設を持つ医療機関に対し「経営実態調査」を行った。（2022 年 1 月）

12．講師に北海学園大学の山本健太郎氏を招き講演会「2022 年の政治展望　衆院選と参院選の狭間で」を WEB 開催した。（2022 年 2 月 26 日）

13．北海道医師会との懇談会を開催し「コロナウイルス感染症と医療経営」「外来機能報告と紹介受診重点医療機関」「地域医療構想と医療データ分析」をテーマに意見交換を行った。（2022 年 2 月 28 日）

14．会員に対してパンフレット「知ってトクする！医療・介護・税金の負担軽減策」を配布した。（2021 年 2 月）

15．前年度に続き「75 歳以上医療費窓口負担 2 割化中止」を求める請願署名を実施し、本道集約分を内閣総理大臣、厚生労働大臣などに提出した。（2022 年 3 月）

16．補聴器購入補助等の改善をはじめ、難聴（児）者への支援拡充をめざし、道内の市町村に対し国への意見書の提出を求める活動を行った。（2022 年 3 月）

17．政策部内で社会保障や医療、経済政策など様々テーマで勉強会を開催した。

審査対策部

2022年4月の診療報酬改定及び､その他の医療制度改革に関する情報や解釈等を、機関紙等を通じて会員に迅速に提供すると共に、各種テキストの販売を行った。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、オンラインによるセミナーの企画・検討を行い10月には北海道国民健康保険団体連合会審査部長の野上孝司氏を講師に迎え保険診療セミナーを開催し、保険診療や請求事務等の留意点について会員および職員を対象に解説した。

日常的には会員からの保険請求や審査・監査に対する質問や相談に応じ、その一部を本会新聞のQ&A欄に掲載した。

主な具体的活動は次の通りである。

１．担当理事会　　12回

２．支部研修会（講師派遣）

新型コロナウイルス感染症大の影響により、中止となる

３．検討会・セミナー

10月7日　WEB保険診療セミナー

４．保険診療テキストの配布・販売

5月　「医療系介護報酬改定のポイント」、
「医療系介護報酬改定Q&A-レセプトの記載」販売

7月　「公費負担医療等の手引」配布

9月　「医療安全管理対策の基礎知識」販売

3月　「点数表改定のポイント」配布

５．診療報酬改定への対応

2月27日　医科点数表改定のポイント　第一次編集会議

3月13日　医科点数表改定のポイント　第二次編集会議

3月21日　保団連　医科新点数検討会

６．　保団連との連携

医科社保・審査対策部会に3回出席し、社保対策、審査・指導・監査対策の情報共有および活動に協力した。

広　報　部

広報部は、担当理事会を Web 会議含めて全 22 回開催し、北海道保険医新聞の発行、ニュースレターの配信、ホームページの内容充実に日々努め、その他の各種事業について活動を行った。

１．北海道保険医新聞

①医療情勢に関するニュース、医療政策に対する本会の主張や解説記事、講演要旨、各種事業報告を迅速に伝えた。支部報告、読者のひろばでは会員の身近な話題が反映される紙面作りを心掛けた。支部だよりでは各地域での活動状況や特色等を掲載した。「会員訪問」では札幌支部、小樽・後志支部、帯広・十勝支部、オホーツク支部、未組織地区の会員に対して取材を行い、会員の生の声を掲載した。また、保険診療研究を掲載し、日常診療の一助とした。

②読者モニターを検討するも、諸事情により実施を中止とした。

③組織・文化厚生部と協力して組織拡大号を企画・発行し、新規会員獲得に努めた。
（定期発行数 22 回、各 3900 部）

２．ニュースレター

希望する会員に最新医療情報、お知らせ、ホームページ更新案内、保険医会の動きなどを週 2 回Ｅメールで配信し、迅速な情報提供を行った。
（配信回数 104 回、利用者 956 人）。

３．ホームページ

本会の主張や活動内容、医療を取り巻く情報、診療報酬改定等の情報の迅速な発信を行った。

４．北海道新聞社との懇談会

北海道新聞社との懇談会を予定するも、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点からやむなく中止とした。

５．保団連との連携

保団連新聞部会に 3 回、機関紙誌交流会に 1 回出席し、編集に協力した。また、全国保険医新聞「羅針盤」を担当理事が 3 回執筆した。

共　済　部

2021 年度活動方針に基づいて、保険医年金、団体定期保険、保険医休業保障共済保険、銀行提携融資制度の有利性を広く宣伝し､共済部・理事が一丸となって制度の普及・加入者拡大に努めた。

2019 年から続いているコロナ禍により生保職員の募集活動は依然として制約を余儀なくされ、厳しい状況が続いている。さらに保険医年金の後半期募集開始時には大樹生命より予定利率引き下げの通達があった。この通達により募集活動の出端をくじかれた格好となったが、本会新聞や折込ちらし等で保険医年金の魅力をアピールし普及拡大に努め、過去 10 年の後半期普及結果では 2 番目に多い新規申込を得ることができた。

１．共済部担当理事会並びに各種委員会の開催

共済部担当理事会（4 回)、保険医休業保障共済保険給付審査委員会(10 回)、保険医休業保障共済保険加入審査委員会（3 回)、北海道保険医会共済制度運営委員会(１回)を開催し、制度の健全な運営と普及･拡大に努めた。

２．会員への情報提供

機関紙の「組織拡大号」、ホームページ等を通して、生保業界を取り巻く経済状況や共済制度に関する情報提供に努めた。

３．「ライフプラン講座」の開催

昨年度に引き続きコロナ禍のため、オンラインセミナー形式で開催した。また、講演終了後録画配信も行い、講演当日都合がつかない会員でも参加できるよう、利便性の向上を図った。

＜講座①＞日　時　12 月 11 日（土）
講　師　ふたば税理士法人　代表社員／公認会計士・税理士
西　俊輔　氏
演　題　相続税の基礎
形　式：オンライン講演（講演後１週間の期間限定録画配信）
当日参加　24 名
録画配信視聴回数　67 回

＜講座②＞日　時　2 月 5 日（土）
講　師　ふたば税理士法人　代表社員／公認会計士・税理士
西　俊輔　氏
演　題　相続対策の基礎
形　式：オンライン講演（講演後１週間の期間限定録画配信）

当日参加　35 名
録画配信視聴回数　45 回

４．組織部・合同会社　保険医サポート北海道との連携

組織部と協力して宣伝、募集活動を行い、会員拡大および団体定期保険・保険医年金・保険医休業保障共済保険の加入者拡大に努めた。

保険医サポート北海道と連携し、保険医サポート北海道で取り扱う損保商品の周知や普及拡大に努めた。

５．保団連との連携

保険医休業保障共済保険給付審査委員会（12 回）、保険医休業保障共済保険加入審査委員会（3 回）、保団連共済制度運営委員会（2 回）に積極的に参加し、制度の健全な運営と普及･拡大に努めた。

６．2021 年度の普及実績

①保険医年金

[新規・増口申込]

月払	82 名	360 口
一時払	103 名	1,201 口

[加入総数]（2021 年 9 月 30 日現在）

月払	1,064 名	8,476 口
一時払	488 名	5,507.0 口

（※加入総数の一時払の加入口数については掛金 100 万円を 1 口、50 万円を 0.5 口として集計）

②団体定期保険

[新規加入]（2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 1 日加入）

会員　20 名、配偶者　6 名、子供　1 名　合計　27 名

[加入総数]（2021 年 10 月 1 日現在、2020 年度決算状況）

会員　839 名、配偶者　317 名、子供　78 名　合計　1,234 名

総保険金額　28,894,000,000 円

年間払込保険料合計　180,999,825 円

2020 年度の保険金支払状況　35,000,000 円（4 件）

配当還元金　98,139,223 円(年間払込保険料の 52.79%を還元)

加入率　36.78%

③保険医休業保障共済保険

[新規・増口加入]（2021 年 8 月 1 日～2022 年 4 月 1 日加入）

15 名　54 口

[加入総数]

506 名　　2,098 口（2021 年 8 月 1 日現在）

[給付状況]

傷病	35 名	58,550,000 円
長期	0 名	0 円
弔慰	0 名	0 円

④銀行提携融資制度

北洋銀行　0 名、北海道銀行　0 名、みずほ銀行　0 名、三井住友銀行提携住宅ローン　0 名、三井住友銀行提携フリーローン　0 名、ソニー銀行提携住宅ローン　0 名

組　織　部

組織部は、今年度4回の担当理事会を開催し、各事業計画の具体化、会員拡大や未組織地区に対する組織的対応についての検討を進めた。4月には「会員アンケート」を実施し、会員が本会に何を求めているのか意見を伺った。今後の活動に生かしていくと同時に会員拡大への糸口を見つけていきたい。9～10月と3月には「会員ご紹介キャンペーン」を実施し、4名の入会者を獲得した。

今年度の主な事業では、オンラインを利用して「開業医のための実務セミナー」をテーマ別に 3 回開催した。

1 月 22 日『労務・雇用管理の基本を学ぼう』

講師：特定社会保険労務士　原田　三恵　氏
社会保険労務士法人 プラスワン オフィス８サッポロ 所長
参加：44 名　　会場：オンライン利用

1 月 29 日『医療機関の税務について基本を学ぼう』

講師：税理士　横山　知明　氏
横山知明税理士事務所 所長
参加：55 名　　会場：オンライン利用

3 月 5 日『ハラスメント防止セミナー』

講師：弁護士　須田　布美子　氏
須田布美子法律事務所 所長
参加：26 名　　会場：オンライン利用

オンライン開催のため遠方からの会員参加も多く見られ、専門家を講師に迎えたセミナーを無事に開催することができた。未入会員からの問い合わせはあったものの、今回は会員限定（無料）で開催したためか入会には結びつかなかった。今後もテーマを工夫して会員拡大に繋げたい。

女性部会では、10 月に北大大学院　河原純一郎教授（文学研究院　人間科学部門心理学分野）を講師に招き、「心理学から見たマスク生活でのコミュニケーション～コロナ流行が変えたマスク顔の対人認知～」のタイトルで、初めて WEB を利用した市民公開セミナーを開催した。当日は医師・歯科医師、医療関係者、教育関係者、学生、マスコミ等など 62 名が参加し、セミナー終了後には参加者からのチャットによる質問も受け付け、関心の高さが伺えた。

2 月には、こちらも初めて WEB を利用した女性医師・歯科医師懇談会「よろずトーク」を開催した。講師にメイクアップアトリエ　チーフマネージャーの福士智子さんを迎え、「マスク生活の『肌ケア＆メイクレッスン』」と題した学習会を開催し 5 名が参加した。マスクによる肌荒れのお手入れ方法やアイメイクについて学び、学習会後半には画面越しに普段のメイクに関する質問が積極的に出され、無事

に終了した。

本年度、医科では入会者目標 60 名に対し入会 28 名、退会 76 名となり、実質 49 名の大幅な会員減となった。積極的な未入会員への勧誘や紹介による入会、共済制度加入に伴う入会があったものの、会員の高齢化（死亡、病気・高齢）に伴う退会のみならず、新型コロナウイルスの流行による経費削減や廃業・閉院による退会者が目立ち、医科の会員減に歯止めをかけることができなかった。次年度こそは、会員拡大に繋がる医科会員に対するメリットを打ち出したい。歯科では入会者目標 60 名に対し入会 43 名、退会 31 名、実質 11 名の会員増となった。医科同様、新型コロナウイルスの流行による廃業・閉院による退会もあった中で、紹介による入会や共済制度加入に伴う入会、特に歯科施設基準届出研修会や保険講習会への参加を目的とした入会が目立ち、全体としては 38 名の会員減で、医科歯科合わせての会員総数は 3,242 名となった。

本年度、下記の先生がご逝去されました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。（敬称略）

三山　雄弘（小　樽）　能中　陽一（札　西）　松岡　高博（北　見）

佐藤恭三郎（帯　広）　佐藤　昌巳（旭　川）　高橋　浩二（北広島）

細川　　忍（札　西）　小倉　敏充（旭　川）　佐藤　幸作（札　北）

勝山　　繁（十　勝）　中島　幸則（札　南）　渡邊　欣哉（旭　川）

小笠原俊一（札　南）　吉尾　　弘（札　中）　尾島　　勇（千　歳）

木村　　修（北　見）　関屋　　孝（札　北）

呉　　達仁（札　東）　岡本　正敏（札　中）

区　　分	医　科	歯　科	合　計
開業医会員	1,080 名	1,121 名	2,201 名
勤務医会員	657 名	303 名	960 名
休診会員	58 名	23 名	81 名
合　　計	1,795 名	1,447 名	3,242 名
前年度差	-49 名	11 名	-38 名

文化厚生部

2021 年度代議員総会決定に基づき、下記の事業を行った。今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、親子一泊キャンプ旅行や日帰りバスツアー、クリスマス会の開催は中止したが、接遇・電話対応マナー講座をはじめ、ボウリング大会や文化講演会は新型コロナウイルスの感染防止を十分に行いながら実施した。

また、多くの地方会員が利用するなど大変好評のチケット割引販売では、北海道日本ハムファイターズの観戦チケットをはじめ、劇団四季や北海道二期会開催のオペラ、札幌交響楽団の定期演奏会やレバンガ北海道の観戦チケットなど、チケットの販売枚数を拡充して実施した。

・7 月 31 日 ～ 8 月 1 日　親子一泊キャンプ旅行

＊新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

・9 月 5 日　日帰りバスツアー

＊新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

・10 月 30 日　第 28 回ボウリング大会

参加者：52 名（14 医療機関）
場　所：ディノスノルベサ
懇親会：札幌 東急ＲＥＩホテル

・11 月 6 日　接遇・電話対応マナー講座

参加者：58 名（17 医療機関）
講　師：矢川 美恵子氏（ＡＮＡビジネスソリューション㈱ ）
演　題：「医療現場の接遇＆マナーセミナー」
場　所：プラニスホール

・12 月 4 日　クリスマス会

＊ 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止

・4 月 9 日　文化講演会「 ワインと音楽の夕べ 」

参加者：118 名（59 医療機関）
講　師：阿部 眞久氏（ワインクラスター北海道代表）
場　所：札幌パークホテル

・北海道日本ハムファイターズ チケット販売

・6 月 12・13 日　ベイスターズ戦　80 枚
・8 月 21・22 日　東北楽天戦　105 枚

・9 月 11・12 日　ソフトバンク戦　72 枚

・札幌交響楽団　チケット販売

・9 月 11・12 日　60 周年記念演奏会　67 枚

・12 月 11・12 日　札響の第九　155 枚

・劇団四季 チケット販売

・5 月 22・23 日　The Bridge ～ 歌の架け橋　20 枚

・10 月 18・20・23・24 日　はじまりの樹の神話　55 枚

・2 月 1・2 日 アンドリュー・ロイド ＝ ウェバー コンサート　41 枚

・北海道二期会オペラ　チケット販売

・3 月 21 日　オペラ･ガラ･コンサート　53 枚

・レバンガ北海道 チケット販売

・1 月 9・10 日　三遠ネオフェニックス　31 枚

（選手がコロナに感染し試合中止）

・1 月 29・30 日　川崎ブレイブサンダーズ　42 枚

歯　科　部

新型コロナウイルス感染が全国に拡大し、緊急事態宣言が解除された後も、長期にわたる感染拡大防止の様々な制限や制約により社会生活は大きく変化した。

歯科部の活動もコロナ禍の影響により各種事業が中止や延期となり、感染拡大防止の観点から対面形式での開催方法を見直す必要に迫られた。「歯科スタッフセミナー」「院内感染防止および各種届出に関する研修会」「歯科保険請求・審査等に関する講習会」「歯科臨床講演会」をオンラインで開催し全道各地から多数の会員の参加を得た。

毎月の歯科部担当理事会は事務局・ウエブ参加で行い、会員数の把握、歯科医療政策の動向や各種事業の開催等に関して協議を行った。特に金パラ「逆ザヤ」問題については、保団連大会・代議員会での発言と提言を通じ厚労省に改善要求を行った。

また、会員の日常診療に役立つ保険・審査等に関する情報を北海道保険医新聞、ホームページに掲載、ニュースレターを配信して迅速な情報伝達に努めた。さらにコロナ対応や医院経営、保険診療等に関する会員アンケートを行い、逼迫する医院経営の窮状打開のために国や道に対し積極的な支援拡充を要請すると共に、医療改善のための本会の活動や各種事業に関する評価や意見の集約に努めた。

以下に、歯科部の活動内容を項目毎に具体的に列記する。

１．医療制度・歯科診療報酬の改善運動

①歯科部担当理事会を毎月開催し、会員の現況の把握、歯科医療政策・各種事業活動の協議などを行った。さらに歯科部理事学習会を開催して、歯科医療界における疑問点や課題等を話し合い、相互理解を深めた。

②全国保険医団体連合会の 20-21 年第 2 回代議員会および第 50 回定期大会に於いて、歯科医療の危機的状況の打開と次期診療報酬改定を見据え、保団連としての具体的な活動の方向性について発言を行った。また、次期改定をはじめ、今後の歯科医療改善の大きな運動をつくるための課題・対策等を明確にし推進すべくオンライン開催された保団連総行動集会にも参加した。

③医科歯科会員に対し「保険でより良い歯科医療を求める請願署名」を行い、署名活動への理解と協力を求めた。

④2021 年 12 月、「歯科保険診療に関するアンケート」を実施し、会員の現状把握と医療保険制度、診療報酬、本会の活動に対する意見や要望を収集した。

２．医療を充実、向上させる学術・研究活動

①2021 年 6 月 26 日「歯科医療安全に関する研修会」を小堀善則理事、「歯科外来診療環境体制に係る研修会」「院内感染防止対策に係る研修会」「在宅療養支援歯科診療所に係る研修会」「かかりつけ歯科医機能強化型歯科診療所に係る研修」を北海道医療大学歯学部口腔機能修復・再建学系高度先進保存学分野教授の川上智史先生を講師としてオンラインで開催。施設基準への各医療機関での対応を支援

した。また、その後の会員からの要望により 2021 年 11 月 13 日に第 2 回目研修会を録画配信で開催した。

②2021 年 11 月 27 日「令和 2 年改定の整理と来年度の改定に向けての展望について」をテーマに田辺隆理事、清水学理事を講師として「歯科保険診療・審査等に関する講習会」をオンラインで開催。前回改定での算定要件の変更点や新設事項の整理や令和 4 年改定について進められている中医協での議論について説明した。

③2022 年 2 月 19 日「磁性アタッチメントを支台装置とする有床義歯について－基礎と臨床－」をテーマに北海道大学大学院歯学研究院口腔機能学分野口腔機能補綴学教室教授の横山敦郎氏を講師として歯科臨床講演会をオンラインで開催。歯科医師・スタッフを対象に、磁性アタッチメントの基礎並びに義歯の設計などの臨床について学んだ。

④北海道保険医新聞 5 日号「歯科保険診療研究」において日常臨床での具体的な症例検討を行い、算定要件、Ｑ＆Ａ等正しい情報の伝達に努めた。

⑤歯科部主催の各種事業の開催案内や内容記事を北海道保険医新聞、本会ホームページ、ニュースレターに掲載。事業開催時に適宜アンケートを実施して会員の意見、要望等を反映した事業の企画・開催に努めた。

３．会員の権利と経営を守る諸活動

①会員からの保険診療に関する質問に迅速に回答すると共に、指導等に関する個別相談への対応を行った。

②歯科スタッフセミナーをオンラインで開催し、資料集「窓口業務の基礎知識(本会歯科部発行)」を中心に、医療保険制度の基本的な知識、窓口業務での具体的な対応に関する情報を会員・スタッフに提供した。

４．組織拡大と地域活動

①北海道保険医会の組織体制の強化と活動活性化のため、歯科部担当理事会において組織現況を把握すると共に歯科会員拡大に向けた具体策を協議。未入会員への理事による個別勧誘や歯科新規開業医に入会案内・申込書を送付して会員拡大に努めた。

５．その他

①本会事業部が行う各種事業を通じて、会員およびコ・デンタルスタッフとの親睦を深めた。

②各種開催事業を撮影・録画し会員への情報伝達に役立てると共に、デジタル媒体のさらなる活用・利用法等について検討を行った。